

授 業 要 項 (令和7年度分)

4 年 生

理学療法学科

| | | | | | | | | |
|----------------|---------------------------|---|------------|-----------------|----------|-------------------|-------------|---------------|
| 授業科目名 | | 理学療法トピックス | | (フリガナ) 担当教官名 | | 総括ヤマサキケンジ 山崎健治 | | |
| 開講学期 | | 後期 | | | | | | |
| 対象学科 及び学年 | | 理学療法学科 4年 | 時間数 単位数 | 30 2 | 授業 形態 | 演習 | 必修・選択 の別 | 必修 |
| 科目概要 | | 本科目は、理学療法分野および関連分野の先進的な取組みを学ぶ科目であり、視野を広げる総合的学習の機会とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | | 理学療法および関連分野における視野を広げることができる。 | | | | | | |
| 回数 | 授業内 容 | | | | | | | 担 当 |
| 1 | ロボット・AIを活用した理学療法について | | | | | | | 猪村剛史 |
| 2 | | | | | | | | |
| 3 | 国際リハビリテーションについて | | | | | | | 西尾匡紀 |
| 4 | | | | | | | | |
| 5 | 超音波画像診断装置を活用した理学療法について | | | | | | | 森脇俊貴 曾田将紀 |
| 6 | | | | | | | | |
| 7 | インソールを用いたトレーニングについて | | | | | | | 前谷涼子 |
| 8 | | | | | | | | |
| 9 | パラスポーツ国際大会におけるトレーナー活動について | | | | | | | 増田 拓 |
| 10 | | | | | | | | |
| 11 | 理学療法県士会活動について | | | | | | | 島根県理学 療法士会 |
| 12 | | | | | | | | |
| 13 | 筋膜リリースを用いた理学療法について | | | | | | | 山崎健治 |
| 14 | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | |
| アクティブ ラーニング | | | | | | | | |
| 評価基準 | | 出席状況 50%、授業態度 50%にて評価する | | | | | | |
| 教科書 | | 適宜資料を配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | | 適宜資料を配布する。 | | | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | | | | | | | | |

| 授業科目名 | | 臨床実習Ⅳ | | (フリガナ) 担当教官名 | | 各臨床実習施設指導者・全専任教員 | | |
|--------------------|--|--|----------------|-----------------|------------|------------------|--------------|----|
| 開 講 学 期 | | 前期 | | | | | | |
| 対 象 学 科 及 び 学 年 | | 理学療法学科 4 年 | 時 間 数 単 位 数 | 720 16 | 授 業 形 態 | 実習 | 必修・選択 の 別 | 必修 |
| 科 目 概 要 | | <p>本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて理学療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅲに引き続き、理学療法士の業務内容についての理解を深める。本科目は16週を2回に分けて実施する（Ⅳ－1：8週、Ⅳ－2：8週）。</p> <p>臨床実習Ⅰ～Ⅲの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、学習してきた知識および技術を統合し、患者（利用者）の課題を解決する実践力を育成することを目的とする。また、地域包括ケアシステムの理解および地域における理学療法士の役割を理解するため、訪問リハビリテーションもしくは通所リハビリテーションでの実習を1週間実施する。</p> <p>本実習科目における臨床実習施設は医療提供施設（病院または診療所、介護老人保健施設）とする。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | | <p>臨床実習Ⅰ～Ⅲの到達度に加え以下の項目を到達度とする。</p> <ul style="list-style-type: none">・得られた問題点の関連から妥当性のある目標設定ができる。・基本的な理学療法プログラムを立案し実施できる。・理学療法プログラムの効果を検証し必要に応じプログラムの修正ができる。・経験した一連の理学療法思考について経験症例カルテや経験症例レポートとして記録ができる。・地域包括ケアシステムおよび地域における理学療法士の役割を理解する。 | | | | | | |
| 回数 | 授 業 内 容 | | | | | | 担 当 | |
| 1 | <p>臨床実習Ⅳ－1 時間：320時間（8週間：40日間） 場所：医療提供施設 内容：医療提供施設において、臨床実習指導者の指導・助言のもと、一連の理学療法の過程を学習する。臨床実習Ⅰ～Ⅲの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、学習してきた知識および技術を統合し、対象者の課題解決に向けて取り組む。また、地域包括ケアシステムの理解および地域における理学療法士の役割を理解するため、訪問リハビリテーションもしくは通所リハビリテーションでの実習を1週間実施する（Ⅳ－1、Ⅳ－2いずれか一方）。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間（320時間）とし、4時間の家庭内学習（352時間）とする。</p> | | | | | | 臨床実習 指導者 | |
| 2 | <p>臨床実習Ⅳ－2 時間：320時間（8週間：40日間） 場所：医療提供施設 内容：医療提供施設において、臨床実習指導者の指導・助言のもと、一連の理学療法の過程を学習する。臨床実習Ⅰ～Ⅲの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、学習してきた知識および技術を統合し、対象者の課題解決に向けて取り組む。また、地域包括ケアシステムの理解および地域における理学療法士の役割を理解するため、訪問リハビリテーションもしくは通所リハビリテーションでの実習を1週間実施する（Ⅳ－1、Ⅳ－2いずれか一方）。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間（320時間）とし、4時間の家庭内学習（352時間）とする。</p> | | | | | | 臨床実習 指導者 | |
| 3 | <p>臨床実習前後評価 時間：16時間 臨床実習前評価内容（8時間）：実習前 OSCE 臨床実習後評価内容（8時間）：実習後 OSCE</p> | | | | | | 全専任教員 | |
| アクティブ ラーニング | | 各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。 | | | | | | |
| 評 価 基 準 | | 総合評価は学院教員にて実施する。 実習前後の OSCE：50％、臨床実習後の提出課題内容 30％ 実習報告会の内容 20％ | | | | | | |
| 教 科 書 | | 島根リハビリテーション学院 理学療法学科 臨床実習要綱 | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | | 臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担当。 | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------------|--|---|----------------|-----------------|------------|-------------------------|--------------|----------|
| 授業科目名 | | 総合演習Ⅳ | | (フリガナ) 担当教官名 | | スズ 鈴 キ 木 テツ 哲 | | |
| 開 講 学 期 | | 通年 | | | | | | |
| 対 象 学 科 及 び 学 年 | | 理学療法学科 4 年 | 時 間 数 単 位 数 | 60 2 | 授 業 形 態 | 演 習 | 必修・選択 の 別 | 必修 |
| 科 目 概 要 | | 本科目では 4 年間の学習成果の統合を目的とする。既学習分野の専門基礎分野および専門分野全てを学習範囲とする。定期的な模試を行い、学習の理解や暗記度を確認する。教員から提示するスケジュールを基本とするが、学習状況に応じて、予定を変更する。学習の個別最適化を図るため、e-learning 学習を中心に学習を進める。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | | 国家試験に応用できる知識を学修し、国家試験合格力を身につける。 | | | | | | |
| 回数 | 授 業 内 容 | | | | | | | 担 当 |
| 1～30 | ・ 専門基礎分野および専門分野全てを学習範囲とし、学習方法は、e-learning 学習を基本とする。 理解や暗記の確認は、口頭試問や、分野別問題を解き、その正答率から判断する。 また、定期的に模試を行い、各分野の正答率や問題の難易度から評価する。 | | | | | | | 鈴木 哲 |
| アクティブ ラーニング | | e-larning 学習と講義を用いて、専門基礎分野および専門分野のすべての理解と暗記を図る。 1. 科目担当教員から事前に分野の講義動画の提示がある。学生は提示された講義動画を聴講し、理解と暗記を図る。その後、学生は分野の問題を解く。 2. 分からなかった問題については、調べ学習を行ったり、学生間で話し合い、理解を深める。加えて、教員の指導の基、さらなる理解を深める。 3. 最後に難易度の異なる問題を解き、分からなかった問題については、上記と同様な方法を用いて理解を深める。 | | | | | | |
| 評 価 基 準 | | テストを 2 回実施、その平均得点が 60%以上を単位認定とする。 | | | | | | |
| 教 科 書 | | 適宜、資料を配布する。 | | | | | | |
| 参 考 書 | | 国試の達人 運動解剖生理学編 (株)アイベック 国試の達人 臨床医学編 (株)アイベック 国試の達人 理学療法編 (株)アイベック | | | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | | | | | | | | |